

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 社会 第108号

- 中学校，特別支援学校対象 -  
平成19年5月発行

### 基礎・基本の定着を図る中学校社会科学習指導の充実

- 平成18年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫 -

鹿児島県教育委員会では平成16，17年度に引き続き，平成18年度「基礎・基本」定着度調査（以下「今回」という。）を実施した。

この調査は，学習指導要領が示す基礎的・基本的な内容のうち，「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに，各学校の課題を明確にし，きめ細かな指導法の改善に資するなど，基礎・基本の確実な定着を目的としたものである。

今回も，平成16，17年度「基礎・基本」定着度調査（以下「前々回」，「前回」という。）と同様に，小学校第5学年で国語，社会，算数，理科，中学校第1学年及び第2学年で国語，社会，数学，理科，英語について，各学年すべての児童生徒を対象に実施した。

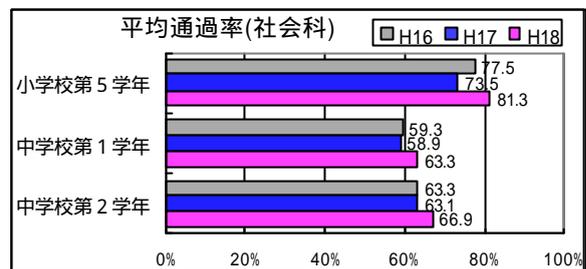
そこで，本稿では今回の社会科の結果について前回，前々回の結果と比較しながら分析・考察するとともに，基礎・基本の定着を目指す社会科学習指導法の工夫改善について述べる。

#### 1 定着度調査の結果と考察

##### (1) 平均通過率

小学校第5学年は，前回よりも約8%高く，80%を超えており，基礎・基本は

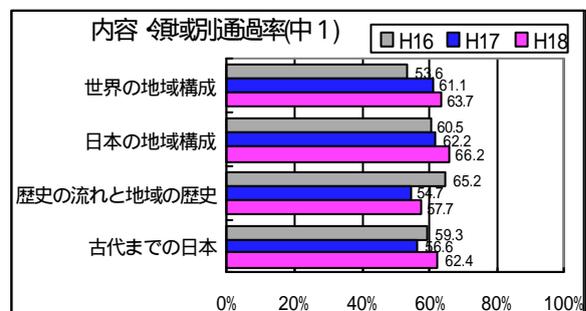
おおむね定着していると言える。



中学校は，第1学年が約63%，第2学年が約67%であり，前回よりも高い通過率となっており，各学校での取組の成果がうかがえる。しかし，今回も小・中学校間の格差が見られることから，小学校での学習内容や学習方法を把握するとともに系統性を踏まえた指導が必要である。

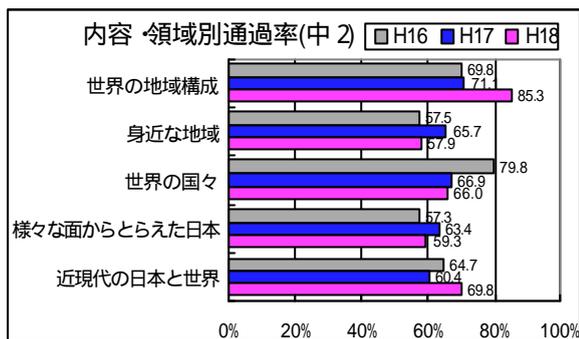
##### (2) 内容・領域別，観点別通過率

内容・領域別通過率で見ると，中学校第1学年では，前回同様「歴史の流れと地域の歴史」の通過率が低い。

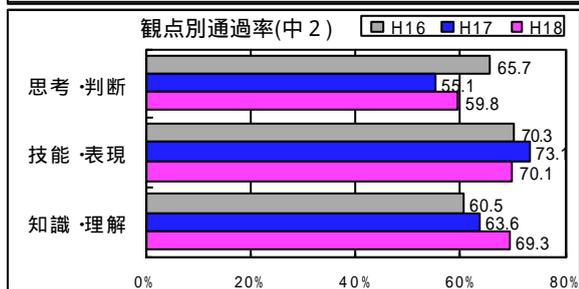
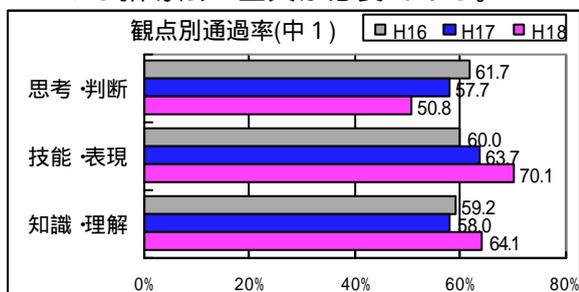


第2学年では「身近な地域」，「様々な面からとらえた日本」の通過率が，前

回と比較して低下している。



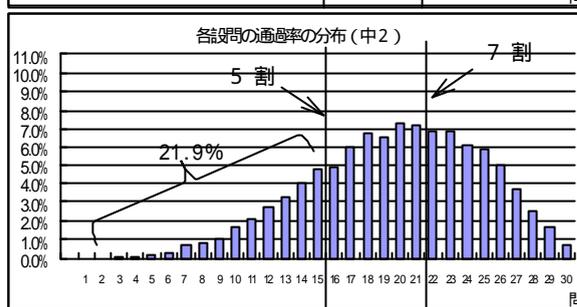
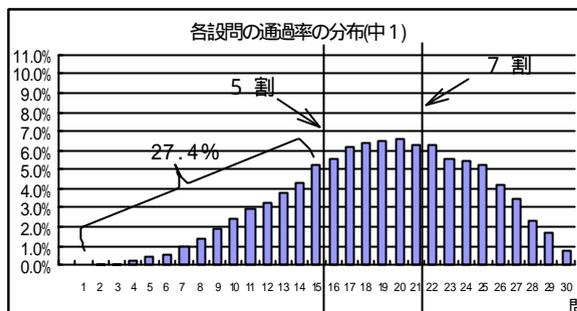
観点別通過率で見ると、中学校第1学年では「技能・表現」、第2学年では「知識・理解」が、前回、前々回と比較して通過率が伸びていることから、各学校での取組の成果が表れている。しかし、今回の調査では「思考・判断」が他の観点と比較して低い通過率になっている。このことから、単に基礎的・基本的事項を暗記するだけでなく、社会的事象間の関連を図りながら考えさせる指導法の工夫が必要である。



### (3) 各受検者の正答数の分布

今回の調査の結果から、各受検者の正答率の分布を見てみると、正答率5割以下の受検者が第1学年・第2学年共に20%を超え、特に第1学年で多い。この結果から、

小学校との系統性を踏まえた学習内容や指導法の工夫と、「基礎・基本」の確実な定着のための繰り返し指導と確認のための見届けが必要である。



### (4) 通過率が低い問題と誤答傾向

〔第1学年〕

問題(概要)	正答	誤答例等
奴国が、金印を授けられた時の中国の様子として正しいものを選択する問題 (問5-4)	28.8%	イ(漢) ア(秦)
北方領土の正しい位置と領域を選択する問題 (問2-3)	39.9%	エ ウ(北方領土より緯度の高い千島列島) イ(樺太)
豊臣秀吉が天下を統一した1590年は何世紀になるかを答える問題 (問4-2)	45.7%	16 15

奴国が金印を授けられた時の中国の様子として正しいものを選択する問題では、通過率が28.8%と低かった。金印に刻まれた当時の中国の国名の理解が不十分であったことから、古代日本の国家が形成されていく過程を、中国等の東アジアとのかかわりの中できちんと理解させる必要がある。

北方領土の正しい位置と領域を選択する

問題では、北方領土より緯度の高い千島列島や樺太を選択した誤答が多かった。地図帳等を活用して、北方領土も含めた国土の位置及び領域について、緯度や経度の関係だけでなく、近隣の国々との位置関係等広い視野からとらえさせる必要がある。

豊臣秀吉が天下を統一した1590年は何世紀かを答える問題では、15世紀という誤答が多かった。年表を活用して、西暦年が何世紀になるか等の年代の表し方について正しく理解させる必要がある。

〔第2学年〕

問題(概要)	誤答例等	
環太平洋造山帯分布から分かる日本列島の特徴として当てはまらないものを選ぶ問題 (問1-2)	正答	エ(四季の変化がはっきりしている)
	通過率	28.6%
	誤答例	ウ(河川は短く、流れが急である)
地形図から読み取れる内容として当てはまらないものを選ぶ問題 (問3-3)	正答	イ(工場周辺は水田として利用されている)
	通過率	36.9%
	誤答例	エ(さくら駅周辺は建物が多い)
25,000分の1の地形図で8cmは、実際は何mかを計算する問題 (問3-1)	正答	2,000(千)
	通過率	37.2%
	誤答例	200,000

環太平洋造山帯の分布から分かる日本列島の特徴について当てはまらないものを選ぶ問題では、通過率が28.6%と低かった。日本列島が環太平洋造山帯に属することから関連付けられる地理的条件について確実に理解していないと思われる。我が国の地域的特色を世界と比較し、関連付けて指導する必要がある。

地形図を基にした出題(問3-1, 問3-3)では、地形図の見方や地図記号、縮尺の理解が不十分であると思われる。

これらの問題に関しては、地形図等を活用して、実際に自分が住んでいる地域

を観察・調査する体験的な学習を行うことで、地形図の正しい見方や地図記号の読み取りなどの地理的技能を高めていく必要がある。

また、25,000分の1の地形図での距離計算の問題は、前回もほぼ同じ内容で出題されており、200,000mや200mという誤答が多かった。縮尺に基づく計算の方法やセンチメートルをメートルに単位換算することなどを十分理解させる必要がある。

2 結果を踏まえた改善策

(1) 改善の視点

小・中学校の系統的な指導

前々回の小学校第5学年と今回の中学校第1学年の同一集団の平均通過率を比較すると、小学校第5学年時は77.5%あったが、今回中学校第1学年での調査では、63.3%となり、約14%の低下が見られる。このことから、小学校との系統性を踏まえた学習指導が十分でないと考えられるので、系統性を踏まえた学習内容や指導法の工夫を図る必要がある。その際、学習指導要領を熟読し、生徒たちが小学校で学んだ学習内容や身に付けた力について適切に把握し、指導に生かすことが大切である。

「知識・理解」の確実な定着と見届け

通過率が低かった問題に共通して見られる傾向の一つとして、「知識・理解」が確実に定着していないことが挙げられる。生徒一人一人に知識を確実に定着させ、理解を深めさせるとともに、確認のため

の確実な見届けを行いたい。

社会的事象の関連を図るための学習指導法の工夫

今回の調査では、前回、前々回同様に中学校第1学年の「歴史の流れと地域の歴史」の内容の定着が不十分であった。

また、各学年で最も通過率が低い問題に共通してみられる傾向として、生徒は個々の社会的事象を知識としては獲得しているが、関連性についての理解が不十分であることが挙げられる。

そこで、生徒が、一つ一つの社会的事象を整理したり、学習を進めながら社会的事象の関連を図ったりするための学習指導法の工夫を図りたい。

(2) 改善策

小・中学校の系統的な指導

	小学校	中学校
	第5学年の内容(4)ア	地理的分野の内容(1)
内容	(4) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。 ア 国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見て特色ある地域の人々の生活	(1) 世界と日本の地域構成 イ 日本の地域構成 地球儀や地図を活用し 我が国の国土の位置、領域の特色、地域区分などを取り上げ、国土の地域構成を大観させる。 (ア) 日本の位置と領域 我が国の国土の位置及び領域の特色と変化を広い視野から考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観させる。
内容の取扱い等	アの「国土の位置」の指導については、我が国の領土と近隣の諸国を取り上げるものとする。その際、我が国や諸外国には国旗があることを理解するとともに、それを尊重する態度を育てるよう配慮すること。	イの(ア)については、地球儀や地図を活用して我が国の位置と領域の特色を多面的・多角的にとらえるようにすること。また、「領域の特色と変化」については、北方領土が、我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすること。

図1 学習内容の系統(日本の位置と領域)

小学校との系統性を踏まえた指導の具体例について述べる。学習指導要領や同解説社会編(以下「解説編」という。)で、中学校社会科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを十分理解した上で、小学校社会科の目標や内容などについて把握したい。先に示したのは、中学校社会科地理的分野の「日本の位置と領域」と対比させた小学校との学習内容の系統である(図1)。こうした系統を踏まえた上で、小学校との交流授業や合同研修会などを実施し、学習内容の精選や指導法についての工夫改善を図っていき

「知識・理解」の確実な定着と見届け

ア 「知識・理解」の確実な定着・見届けのためのポストテストの工夫

「知識・理解」の確実な定着を図ることは、基礎・基本の定着を図る上で欠かせない。そこで、ポストテスト等を実施し、「知識・理解」の定着のための確実な見届けを行いたい。具体的に一例を挙げる。

まず、予習で次時の授業における基礎的・基本的事項について調べさせる(図2)。

小単元名「国際的な文化の開化」

次の重要語句を説明しなさい。

重要語句	説明	ここで確認	確認
飛鳥文化		教科書P38	
遣唐使		教科書P38 (小)	

(小)～小学校との関連  
(鹿児島市立伊敷中学校社会科の実践例)

図2 予習段階でのポストテスト例

次にその調べてきた基礎的・基本的事項について本時の終末でポストテストを実施し、どれだけ定着しているかを確認する（図3）。

小単元名「国際的な文化の開化」			
次の重要語句の説明を読み、適する語句を答えなさい。			
重要語句	説明	ここで確認	確認
	聖武天皇が、 <u>仏教の力によって国家を守る</u> うと、都に建てた寺である。 <u>本仏殿</u> が751年に完成し、地方には、 <u>国分寺</u> と <u>国分尼寺</u> が建てられた。 (薩摩国は薩摩川内市、大隅国は国分市)	教科書 P38	
	770年ごろにできた和歌集で、歌の作者は、皇族・貴族・僧から、農民・防人など幅広い。 <u>万葉がな</u> く、 <u>日本語を漢字で表記した</u> で書かれており、 <u>素朴で力強い歌が多い</u> 。	教科書 P39	
(小) - 小学校との関連			
~~~~~ は、解答のためのヒントを表す。			

図3 終末で行うポストテスト例

このような予習と授業をつなぐポストテストの活用の工夫を行うことで、生徒一人一人に「知識・理解」を確実に定着させることができる。また、小学校の既習事項をポストテストに明記することで、小学校との系統性を踏まえた指導も行える。

#### イ 習熟度に応じたポストテストの活用と繰り返し指導の実施

図3で示したポストテストは、解答方法を替えることで、生徒の習熟度に応じた使い方も可能になる。具体的には、直接記述させる方法と、記号を選択して解答させる方法の2種類のポストテストを準備する。それを生徒が基礎的・基本的事項の定着度に応じて自ら選択して使う。このことで教師は、生徒一人一人の理解に応じた指導も行える。また、定着率が低い問題については、単元のまとめの段階で再度出題したり、定期テスト等にも出題したりするなどの繰

り返し指導を行うことで、「知識・理解」の確実な定着が図れる。

#### 社会的事象の関連を図るための学習指導法の工夫

社会的事象の関連を図るための学習指導の一つの方法として、学習内容の構造化がある。ここでは、歴史的分野を例にとって述べてみたい。

「解説編」の歴史的分野の目標には、「我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、(中略)」と示されている。そこで、生徒が、1単位時間ごとに学習したことをまとめ、学習を進めながら学習内容相互の関連に気付くことができるような工夫を行うことで、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を理解させたい。

具体的には、単元全体を貫く学習課題に基づき、1単位時間の学習内容についてまとめ、構造化したワークシートの工夫を行う(図4)。

ワークシートの作成手順は以下の通りである。

単元にかかわる「解説編」の目標や内容、教科書などを熟読し、単元全体を貫く学習課題を設定する。

各1単位時間の学習内容を幾つかの視点から整理する。

例えば、歴史的分野では「政治」や「経済」、「文化」、「諸外国とのかかわり」などの視点が考えられる。

整理した学習内容を各視点ごとに関連付け、単元全体を貫く学習課題に迫れるように構造化する。

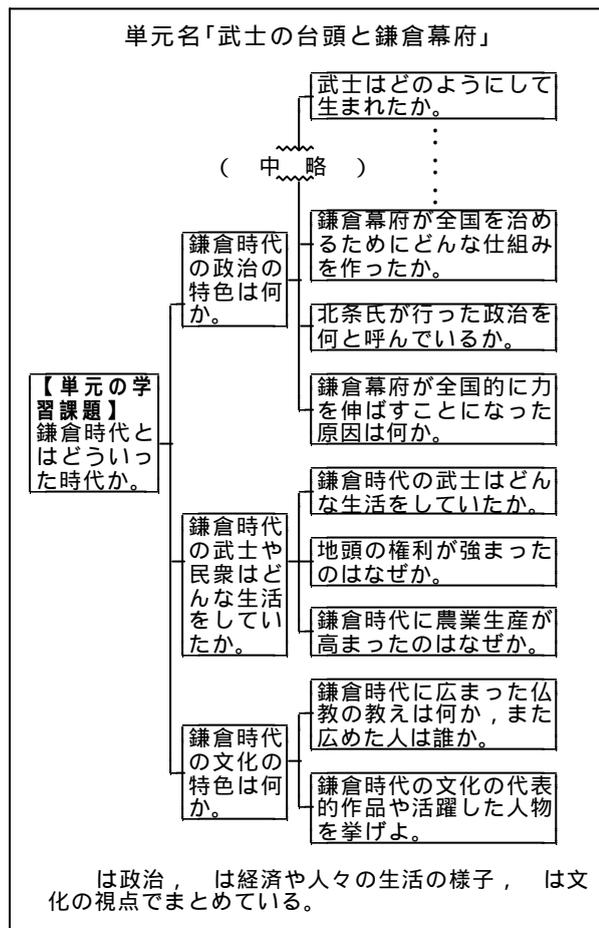


図4 学習内容の構造化例(武士の台頭と鎌倉幕府)

図4のワークシートを活用することで、発問も整理され、単元の中での社会的事象の関連も明確になる。さらに単元ごとの関連を明確にしたワークシートの工夫も行うことによって、地理的分野では、地域ごとの特色を考察し理解させることにつながる。

そこで、地理的分野で「世界の国々の中から二つ又は三つを選択し、具体的に取り扱う学習」(解説編)を例に挙げて述べる。

まず、国ごとに図4の例に従い「自然」や「主な産業」、「人々の生活の様子」などの視点で学習内容の構造化を図ったワークシートを作成する。

次に、各国を比較するためのワークシートを作成する(図5)。

このようなワークシートの工夫を行うことで、生徒は単元や国ごとの特色や相互の関連に気付きやすくなる。

	アメリカ合衆国	オランダ
自然	地形 (世界第4位の面積) ・西部～ロッキー山脈が あり、環太平洋造山帯に 属す。 ・中央～広い平原が あり、ミシシッピ川が 流れている。 ・東部～なだらかな 地形となっている。 気候～熱帯から寒帯	地形 (九州よりやや大きい 面積) ・ライン川下流の低 湿地に位置する。国 土の約4分の1がポ ルダーと呼ばれる干 拓地 ・標高の低い国土 であり、環境対策を 進めている。 気候～温帯
主な産業	農業～大規模経営 であり、地域で異な る農作物を栽培 ・小麦、だいず、とう もろこし、綿花など の生産が盛んで、海 外へ輸出している。 (穀物商社)	農業～狭い土地で 大きな収入をあげ る。(ヨーロッパ の中でも面積の 当たりの農業生産 額が高い。)・園芸 農業が盛ん。

図5 国ごとの関連を図るワークシートの工夫例

今回のワークシートの工夫については、地理的分野や歴史的分野だけでなく、公民的分野においても必要である。各分野において、学習内容を構造化したワークシートの工夫例を参考に、社会的事象の関連を図るための学習指導法の工夫について、取り組んでいただきたい。

こうした工夫は、教師にとっても単元全体を見通し、学習内容の関連や構造化を図る上でも大切なことであり、より深い教材研究につながるはずである。

「基礎・基本」の定着のための改善策について述べてきた。各学校においては、今回の調査だけでなく、前回、前々回の調査も含めて、実態把握と分析を行い、生徒のために更なる「基礎・基本」定着のための具体的取組を進めていただきたい。(教科教育研修課)

